IT社会と同窓生の絆

第10～12代香友会会長
吉田　企世子
〔短大昭和 30 年卒業〕

学園と共に歩んできた香友会が80周年を迎えること、おめでとうございます。

昭和16年（1941年）に女子栄養学園本科を卒業された小竹絢子先生の発案により同年に同窓会が設立されました。そして当時調理室助手として勤務しておられた同級生の大野富美江先生と相談した結果、会の名称は香川の「香」をとって「香友会」と命名することを提案し、香川綾学園長の了解を得て名称が決定したと小竹先生から伺いました。初代会長に小竹先生が就任され昭和54年（1979年）まで38年間という長きに亘って会長として香友会の礎を築き、その発展に大きく貢献されました。先生は教務・学生課に勤務しておられましたので学生時代、卒業後と大変お世話になりました。いつも和服をお召しになり気品のある先生の魅力に惹かれて香友会に協力しましたが、特に学園に勤務する卒業生の一人として会長のもとで香友会活動費を得るために苦戦した諸々が鮮明に思い出されます。現在は学園入学時に香友会入会金が納入されますが、これは学園の（故）久保三成常務理事のご配慮で昭和61年（1986年）から開始されたのです。

図らずも第10～12代会長を担うことになりましたが、先輩会長の下で香友会組織が構築されていましたので活動しやすい環境でした。しかし多くの課題もありました。特に、同窓生は全国に在住しているのに一部の支部以外は支部活動が活性化されていないことに大きな問題点を感じました。支部が結成されていない県もありました。そこで支部組織を充実するために支部支援部を立ち上げ権平康子さん（短大昭和36年専攻科37年卒業）が部長を担当し、全国47都道府県に支部が設立され各支部の支部長を中心に活動が広まりました。さらに韓国からの多くの留学生が卒業後自国に戻って活躍しているので、韓国同窓生の会も設立されました。

同窓生の絆、活躍は香友会の発展に繋がると共に、学園の発展にも寄与することですから香友会執行部は支部活動に十分なサポートをしつつ更なる活性化に努めてほしいと願います。しかし、支部によって事情が大変異なります。活動が不可能に近い支部もあります。支部に見合った支援を工夫しなければならないでしょう。卒業生が一人も存在しない支部も多くなることも予想されます。しかし一人でも卒業生がいる限り、手を差し伸べるのが香友会の在り方と考えます。

そして卒業生はそれに応える行動をとることが望まれます。

現在社会の生活環境からは同窓会支部など必要ないとの考えもあるようですが、香友会はそうあってはならないと願います。執行部は支部支援のために勉強会その他の事業も積極的に計画することを望みます。

現在はＩＴ（インフォメーション・テクノロジー）に支えられる社会となっています。組織としての活動がより合理的になるでしょう。新型コロナウイルスの関係で香友会もオンラインが導入され会議への参加が容易になったことでしょう。

このような時代であるからこそ人間同士の触れ合いが欠かせないと感じます。同窓生との関わりの中で人間性や人格が培われることを願っております。同じ学び舎に籍を置いた者同士に通じるものがあるのです。支部の集まり、総会には積極的に出席して欲しいのです。

香川栄養学園で学んだことを誇りに思って活動できる同窓生を支えるために香友会執行部としてはどのように対応すべきか広く検討し実践して頂きたいと願っております。